

同志社大学

2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010年 3月 20日提出

所 属	職 名	氏 名
文学部	准教授	西川貴子
研 究 題 目	日清戦争前後における日本の探偵小説の諸問題	
研 究 成 果 の 概 要	<p>明治期に新しく入ってきた「探偵小説」の概念は、多くの作家達に影響を与えていた。</p> <p>そうした「探偵小説」の概念がどのような形で作家達に影響を与えたのか、主に「探偵小説」が流行した日清戦争前後の作品を取り上げて考察した。</p> <p>①泉鏡花「外科室」の視線の問題に注目し、考察を行った。</p> <p>▼ その成果は「〈見る〉ことをめぐる語り——日清戦争前後の泉鏡花の作品を中心に——」（「1890 - 1950年代日本における《語り》についての学際的研究」研究会合）での研究発表となった。</p> <p>②日清戦争と鏡花作品の関わりを「海城発電」などの作品でも見つめ直した。</p> <p>▼ その成果は2010年4月に出版される『〈仕事〉の百年』（仮題）（双文社刊）内の「海城発電」解説に生かされている。</p> <p>③日清戦争前後ということから広げて、昭和期の「探偵小説」と同時代社会との関わりということで、佐藤春夫の作品を引き続き調査した。</p> <p>▼ その成果は「消え去りゆく〈声〉—佐藤春夫「奇談」を読む—」，（『日本文学』第58巻7号，2009年7月）の論文に生かされている。</p>	